

# 第61回全国公立学校教頭会研究大会滋賀大会 分科会報告

大分県公立学校教頭会 研究部長 汐見美樹

## 【第2分科会】 子供の発達に関する課題

### ① 山梨(小学校) 市川三郷町立市川東小学校

児童生徒の理解・生徒指導・豊かな人間性の育成を目指して

～関係機関との連携のあり方や方策について～

**協議の柱** 「関係機関との望ましい連携を進め、組織的な生徒指導対応のための副校長・教頭のリーダーシップ」

- ・ どのような視点で、どう動けばよいのか、日頃から職員間で研修しておく。
- ・ 常に情報収集に努め、判断は管理職が行う。コーディネーターを中心に動ける組織をつくっておくことが重要である。

### ② 大阪(中学校) 豊中市立第九中学校

豊かな人間性の育成と校区一斉清掃

～地域との連携を深める取り組みに教頭としてどう関わるか～

**協議の柱** 「地域との連携を深める取組に副校長・教頭としてどのように関わり、豊かな人間性の育成を目指していくか」

- ・ 教頭はコーディネーターとしての役割を果たす必要がある。
- ・ いいことだからとすべて取り組むのではなく、本当に必要なことを精選し、組織として、みんなで分担することも必要。思い切った改革や業務改善も意識するべきである。

### ③ 滋賀(小学校) 甲賀市立佐山小学校

課題のある子供を中心に据えた、どの子も育つ学びづくりと仲間づくり

～共通実践と個別実践から効果的な教頭の関わり方を探る～

**協議の柱** 「どの子も育つための学びづくり・仲間づくりに向けた副校長・教頭の役割」

- ・ なぜこの活動や取組が必要なのか、を常に意識しておく。活動ばかりに目を奪われるのではなく、なぜそうするのかみんなに伝えていくことが必要である。
- ・ 何度も声をかけ、PDCAサイクルを回し、確認をしながら、組織として取り組めるようにすることが教頭の仕事である。

## 「教頭としてどうあるべきか」指導助言の方の話もふまえた第2分科会のまとめとして

- ・ 教頭は校長の補佐であるということは大前提である。しかし、「補佐」ではあるが、「Yes Man」であってはいけない。学校経営にとって本当に必要なことであれば、しっかりと進言すべし。
- ・ 教頭は学校の要として、情報が全て自分のところに集まるようにしておく。良い情報も悪い情報も全て何でも知っている存在でなければいけない。そして、校長の学校経営方針を自分の言葉で語れるようにしておくべきである。
- ・ 決してあきらめないこと。ステップを踏み、根拠を明らかにしていけば、人は必ずわかってくれる。どうすれば10年先まで続けていくことができるか考えながら、職員を組織的に動かしていくことが重要である。